

先の 4 月 18 日(日)に行われた新試験制度 3 回目となる平成 22 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、応用情報技術者試験の合格発表コメントをお知らせします。

### 応用情報技術者試験 ( A P )

[平成 22 年春期の応用情報技術者試験 統計情報]

応募者	65,487 人
受験者	42,338 人
合格者	8,592 人
合格率	20.3%

新試験第 3 回目の実施となる平成 22 年春期の応用情報技術者試験では、前回平成 21 年秋期の試験に比べ応募者が 3,000 人ほど増えていますが、合格者は 400 人ほど少ない結果となりました。合格率は 20.3%で前回の試験よりも若干下がりましたが、1 回目の平成 21 年春期試験の合格率は 26.1% (過去最高の結果) でしたので、試験が難化傾向にあるといえます。

今回の試験の傾向や特徴をまとめると、次のようになります。

#### [午前問題]

- ・ 新試験制度 1 回目の試験内容は新たに加わった分野の問題が平易で、難しい問題は多くありませんでしたが、2 回目の平成 21 年秋の試験では新傾向の問題が増え、少し難しくなりました。3 回目になる今回の試験では新分野の問題もある程度予想できるようになったと考えられ、60 点以上とれた受験者数が増えています。
- ・ 過去問題は約 6 割ありましたので、過去の良問をよく理解しておくことが、従来どおり効果的な午前試験対策になるといえます。
- ・ 新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。初めて出題される問題は前回よりも減っていますが、問 25 のマイコン関連の問題は組込み系技術者の専門知識といえる問題が出題されていることが従来傾向と違っていています。また、PMBOK 関連で問 51 のプロジェクトライフサイクルや問 54 の ITIL v3 (今までは v2 の内容) が新しい問題といえます。これらの内容は今後も類似問題が出題される可能性がありますので、よく理解しておきましょう。
- ・ 今回も高度系試験共通の午前 試験は、出題された 30 問すべてが、この応用情報技術者試験で出題された 80 問から選ばれた問題でした。今回、試験に合格された方も、今秋の高度系試験で関連する内容が出題される可能性が大きいので、午前 の出題範囲に該当する問題については十分に理解しておきましょう。

問 8 妥当な XML 文書

問 12 RAID の種類

問 22 OSS 製品の頒布

問 25 マイコンにおける分周器の値

問 26 ヒューリスティック評価法

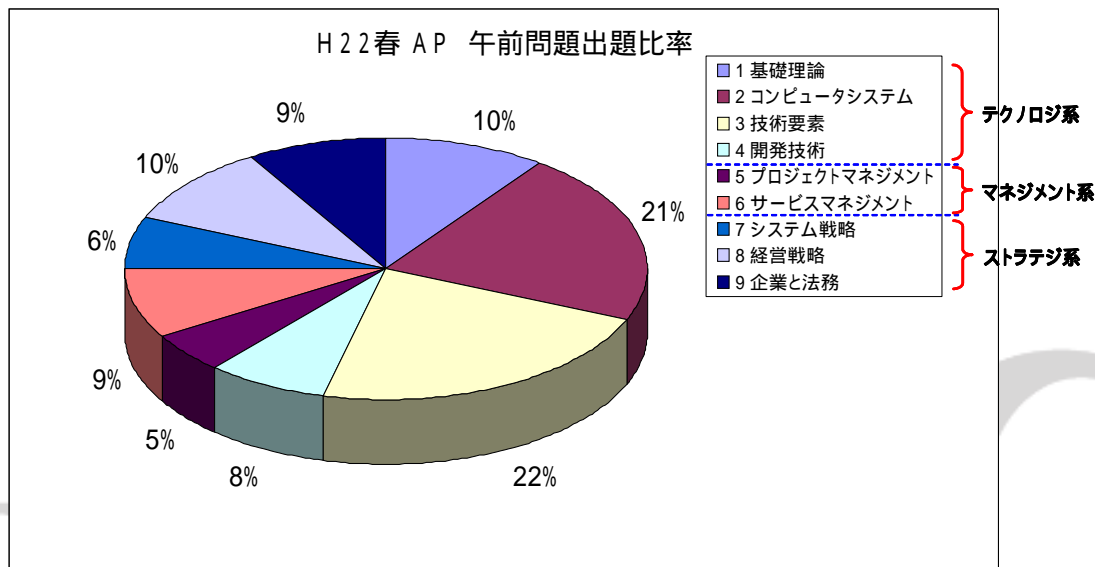
問 41 JIS Q 27002 ( 脅威 )

問 42 LAN アナライザ

問 51 プロジェクトライフサイクル

- 問 54 ITIL v3 (問題管理プロセス)
- 問 57 ベンチマーキング
- 問 61 共通フレーム (システム化構想の立案)
- 問 67 チャレンジ戦略
- 問 69 技術の S カーブ
- 問 70 XBRL
- 問 71 EMS
- 問 73 インテグラル型アーキテクチャ
- ・ 計算問題は 12 問あり, 前回 21 年秋期試験の 7 問に対してかなり増えました。
- ・ 分野別の出題比率は前回とほぼ同じで, テクノロジ系の出題比率が高くなっています。

平成 22 年春期の応用情報技術者試験 午前問題出題比率



〔午後問題〕

新試験制度になって, 午後試験の問題は, 問 1~2 から 1 問解答, 問 3~12 から 5 問解答する選択方式になりました。今回の試験では前回よりも難しい問題が多くなっています。各問題の出題テーマに関する知識を確実に理解し, 問題事例に適用できるよう演習をしっかりと行う必要があります。なお, 問 2, 問 4, 問 8 は試験前に実施したアイテックの公開模擬試験で類似テーマの問題が出題されています。

- 問 1 財務諸表・キャッシュフロー計算書の分析 (経営戦略) **普通**
- 問 2 リスト処理のアルゴリズム (プログラミング) **普通**
- 問 3 バランススコアカード (戦略立案・コンサルティングの技法) **やや難**
- 問 4 待ち行列計算と性能評価 (アーキテクチャ) **やや難**
- 問 5 無線 LAN の設定 (ネットワーク) **普通**
- 問 6 SQL 文の検証 - 内部結合・外部結合 (データベース) **やや難**
- 問 7 RTOS のタスク同期制御 (組込みシステム開発) **やや難**
- 問 8 クラス図, UML シーケンス図 (情報システム開発) **やや難**
- 問 9 DNS キャッシュポイズニング (情報セキュリティ) **やや易**
- 問 10 EVM による進捗管理 (プロジェクトマネジメント) **普通**
- 問 11 インシデント管理における作業改善 (IT サービスマネジメント) **やや難**
- 問 12 外部委託管理の監査 (システム監査) **やや難**

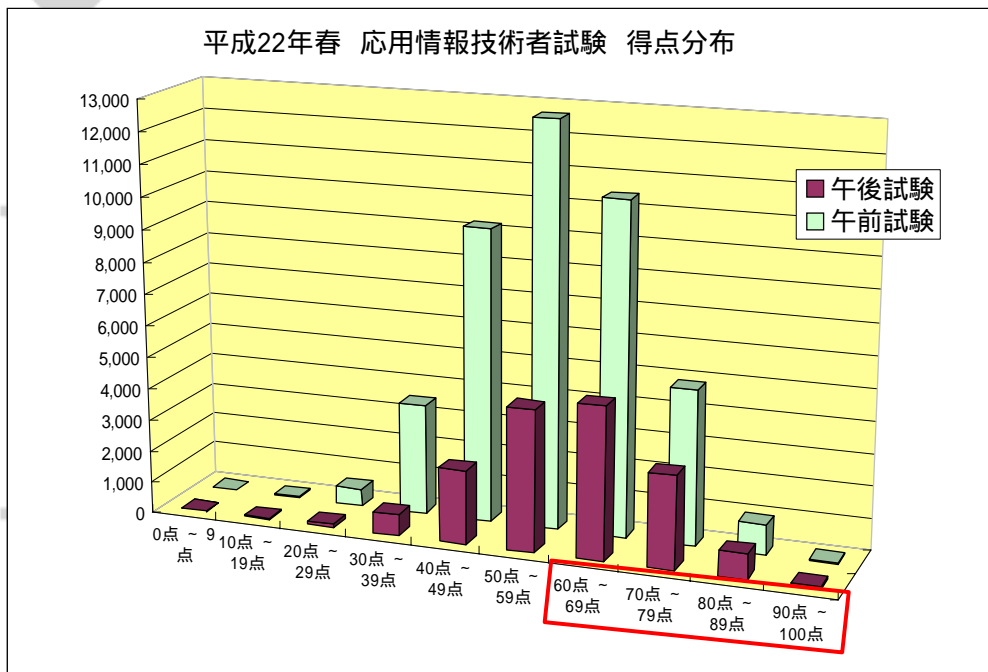
問題内容として、問1、問2は特に難問といえるものではありませんでしたが、問3以降の選択問題が前回の試験よりも全体的に難しくなっているといえます。

発表された応用情報技術者試験のスコア分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。

〔平成22年春 応用情報技術者試験 スコア分布〕

平成22年春 AP	応募者	受験者	合格者
人数	65,487	42,338	8,592
率		64.7%	20.3%

得点	午前試験	午後試験	合格者
0点～9点	23	15	
10点～19点	41	30	
20点～29点	535	110	
30点～39点	3,508	675	
40点～49点	9,226	2,315	
50点～59点	12,683	4,449	
60点～69点	10,443	4,792	
70点～79点	4,890	2,919	
80点～89点	942	796	
90点～100点	47	85	
計	42,338	16,186	8,592
対前試験比率		38.2%	53.1%



今回の平成22年春の試験の午前試験では合格基準点の60点以上の人が16,322人で受験者の38.6%でした。前回の21年秋の試験でも受験者の34.1%の人しか60点以上取れておらず、応用情報技術者の午前試験が受験者の方たちにとって難しい傾向が続いています。

午後試験で合格基準点の60点以上を超えている人すなわち合格者が8,592人(同53.1%)います。午後試験の問題自体は前回よりも難しい問題が多かったと考えていますが、60点以上取れた人の割合も10%ほど低くなっているのです、このことを裏付けているといえます。

ボーダラインといえる得点の人について、午前試験で50点以上60点未満の人が12,683人(受験者の29.9%)、午後試験で50点以上60点未満の人が4,449人(同27.4%)います。この方たちは

実力的にはほんとうにあと一步のところまで来ていますので、苦手と感じる分野を中心に早めに次の試験対策を始めてください。

午後の試験で合格スコアに至らなかった方は、今後の対策として、「午前試験で出題される知識の理解度をまず上げ」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」ことが大切です。

#### 合否別の試験対策と通信教育、セミナーのご案内 (今回合格された人へ)

合格された方で今秋の情報セキュリティスペシャリスト、ネットワークスペシャリストやシステムアーキテクト、ITストラテジスト、ITサービスマネージャ試験を目指す方は、午前の試験が午前 の共通知識と午前 の専門知識に分かれます。午前 試験は免除になりますので、午前の専門分野知識について、なるべく早く試験対策を始めましょう。まずは該当分野の応用情報技術者試験の問題を解くことをお勧めします。

午後 試験が論文となるシステムアーキテクト、ITストラテジスト、ITサービスマネージャ試験を受ける方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点の A 評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書(基礎テキスト)は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験の出題内容を研究し改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページ (<http://www.itec.jp/shop/>) でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前 試験が免除になる方のために最適な教材をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」をお勧めします。高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後 が論述試験のコース対象)の教材が含まれています。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト(分野別全 6 冊)、午前 対策用「合格への総まとめ」、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後 が論述試験のコース対象)をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集(予想問題集、本試験問題集)と模擬試験(2回)、論文添削(2回;午後 が論述試験のコース対象)をセットにした標準学習時間 4 か月の「**速習コース**」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「**合格ゼミ**」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

(今回残念ながら不合格だった人)

まず、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。苦手な分野は、アイテック刊行の新試験用のレベル3の教科書(通信教育教材)でじっくり学習してください。

今回の午前試験の得点が50点~59点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。

また、午後試験の得点が60点に満たなかった人は、確実に得点するために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。選択範囲が広がったことで解答しやすい問題を選ぶことができますので、チャンスが広がると考えて、早めに対策を始めましょう。

なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたくえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

この他、アイテックで出版している「午前に出る情報技術」や予想問題集、試験対策を受験対策のプロ講師がセミナーで行う「合格ゼミ」、通信教育コースでは、午前試験対策テキスト、テスト(論文あり試験では添削含む)をすべて含んだ標準学習期間6か月の「総合コース」と、問題演習を中心に行うための最新問題集と模擬テスト(2回)を含んだ標準学習期間4か月の「速習コース」など、メニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース! 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

**定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。**

<http://www.itec.co.jp/class/campaign/index.html>

(以上)